



東京2020参画プログラム及び東京2020 Nipponフェスティバルについて

2018年05月28日

東京2020参画プログラム これまでの歩み

2016年10月 東京2020参画プログラム開始



2017年4月 東京2020教育プログラム（愛称「ようい、ドン！」）の対象を全国に拡大
都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト開始

5月 アクション認証件数が10,000件を突破

6月 夏祭りを応援プログラムとして認証開始

7月 東京2020大会3年前「3 Years to Go!」入りマーク提供

応援プログラムの対象を全国の非営利団体に拡大

WEBを利用した申請システムを導入、特設サイトを公開

11月 東京2020大会1000日前「1000 Days to Go!」入りマーク提供

12月 マスコット小学生投票開始

2018年2月 マスコット小学生投票終了

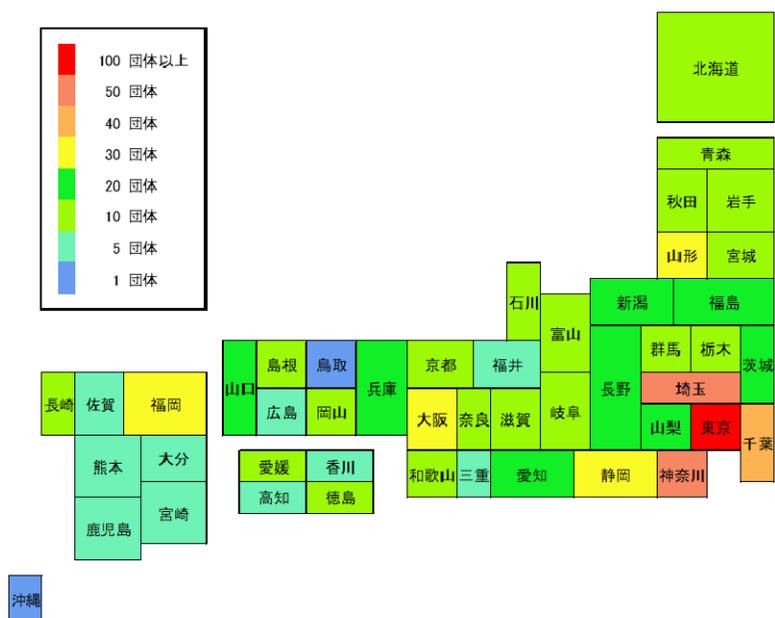
4月 応援プログラム（祭り）受付開始

「祭 MATSURI」マーク提供

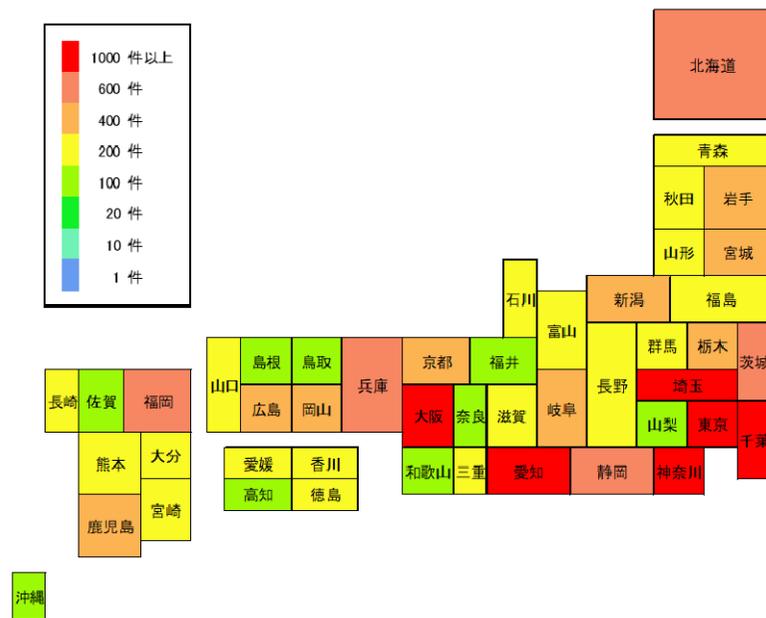
オールジャパンでの参画状況

- 2018年5月16日時点で、約1,500団体が主体登録を実施し、約4万1千件のアクションを認証
- 全ての都道府県から主体登録※があり、全国へと広がる認証アクションへの参加人数は、約3,400万人!!

主体登録の分布



アクションの分布



※都道府県に所在する団体からの主体登録

子どもたちの参画を実現

東京2020大会マスコット 小学生投票

2017年12月11日～2018年2月22日

日本全国の小学校、海外の日本人学校などの児童たちが投票。オリンピック・パラリンピック史上初の取組

【投票総数】

学校数 **16,769** 校
学級数 **205,755** 学級

2018年2月28日

マスコット候補「ア」を東京2020大会マスコットに決定

2018年3月

- 全ての投票校に、学校名の入った感謝状とマスコットのペーパークラフトの電子データを送付
- 抽選100校にマスコットのステッカー(500枚)を贈呈(ステッカー賞)

2018年7月～

- ネーミングなどを経て、東京2020大会マスコットを正式発表
- 投票順2020ごとの学校(計8校)にマスコットが訪問(2020賞)



福島県吉井田小学校の様子



都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト

回収実績

(2017年4月-2018年3月累計)

NTTドコモ：約330万台の携帯電話等

自治体：約14,636トンの小型家電

全国回収拠点の拡大

ドコモショップや自治体窓口での回収に加え、大会パートナー・経済団体の全国拠点への回収BOX設置を要請。全国回収拠点の回収拡大をはかる。

(日本郵便全国3000局への回収BOX設置・日本商工会議所(全国約500か所)への回収BOX設置周知)

今後の活動

PC等、携帯電話以外の小型家電の回収強化

- 回収キャンペーンの積極的展開 (年度末宝さがしキャンペーン等)
- プロジェクト周知各種PRツールの制作 (PR動画・TVCM・交通ビジョン・特設サイト・キャンペーンポスター掲示)

18年夏のメダルデザイン決定を目指し、メダルデザインコンペティションを継続中

【スケジュール (イメージ)】



新たな国民参加型プロジェクトの検討

東京2020を通じたSDGs（持続可能な開発目標）の実現

SDGsとは

- 2015年9月の国連サミットで全会一致で採択
- 先進国を含む国際社会全体の開発目標として、2030年を期限とする包括的な17の目標を設定。
- 全ての関係者（先進国、途上国、民間企業、NGO、有識者等）の役割を重視。



プロジェクトの展開イメージ

- 大会ビジョンの実現のため、コンセプトを同じくするSDGsを活用したアクションを展開
- 国民がSDGsを知り、17の目標の実現に向けた具体的行動起こすきっかけを創るアクションを展開

(案)

- SDGsのロゴ使用
- 都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクトを通じた発信
- 全国の運動会を通じたオリンピック・パラリンピックへの参画
- 東京2020大会をテーマにした小・中学生のポスターの活用

東京2020参画プログラム 新たな取組

東京2020応援プログラム（祭り）

～あなたの街の祭りを認証します～

【概要】

- 日本の伝統文化の振興や地域の活性化などを通じ、東京2020大会の機運醸成・盛り上げに寄与すること
- 広く一般からの参加を認め、参加者を限定しないもの
- 実施期間：夏・秋季（概ね2018年6月～11月）
- 実施主体：非営利団体（商店街、実行委員会含む）
- 実施場所：日本国内
- 2018年4月2日（月）より申請受付開始



（写真）第63回いわき回転やぐら盆踊り大会／2017年認証



- ・ 祭りに特化した認証要件
- ・ 実施対象期間を昨年より延長
- ・ 申請手続きを簡素化
- ・ 特別マーク（左記）をご用意

東京2020参画プログラムを全国へ広げるために

活用しやすい参画プログラムを目指して

- 地域の企業、飲食店、小売り、サービス業であっても、**実行委員会や非営利団体をつくることにより、東京2020応援プログラムの主体となる**ことができる。
- ガイドライン等に基づき、飲食ブースや物販ブースの出展、営利団体の露出等については基本的に認められないが、**イベントの切り分け（例えば、営利企業が露出しない会場や時間帯を切り分け）により、可能な限り認証**できるようにする。
- 夏・秋季の期間限定で「祭り」に特化した要件での認証を行う。特定の企業や商品をPRする目的でなければ、飲食・物販（屋台等）を含むもの、また、全国規模の企業でなければ営利団体が後援等に入っているものも「東京2020応援プログラム（祭り）」に認証する。

東京2020 Nipponフェスティバルの検討状況について

1. 2020年におけるフェスティバルの展開

2017年

2020年4月頃

7月24日～

東京2020大会の一つの大きな流れ

参画プログラムによる
大会に向けた機運醸成



東京2020 Nipponフェスティバル
の展開

- ・大会の盛り上げを最大化
- ・歴史に残るプロジェクト
- ・様々なステークホルダーの参画
- ・国内外への発信



聖火リレー

東京2020大会
開会式
閉会式

2. 東京2020組織委員会が実施するプログラム

- フェスティバル全体のペースメーカーの役割として、文化・教育委員からの助言を受け、以下の4つの主催プログラムを検討中

テーマ (位置づけ)	キーワード	事業者
A (キックオフ)	期待感・祝祭感／伝統文化・芸能／ エンターテインメント	電通 ネイキッド
B (大会直前)	海外への発信／日本らしい文化／ 多くの人々の参加	博報堂 KADOKAWA
C (大会移行期)	パラリンピック／障がい者による芸術活動／ 未来へのメッセージ	東急エージェンシー I & S BBDO
D (全国展開)	復興／持続可能性 (SDGs) ／ 全国からの参画	ADK グリーンアップル

⇒2018年7月 (大会2年前ごろに) 、フェスティバルの計画概要を公表予定

4. ステークホルダーとの連携

